

## 第1回あいの風とやま鉄道富山駅高架下開発検討委員会

日時：平成28年8月31日（水）15:30～17:00

場所：富山県庁4階大会議室

### ○知事挨拶

（石井知事） 本日は第1回目のあいの風とやま鉄道富山駅高架下開発検討委員会を開催いたしましたところ、委員の皆さまには委員ご就任を快く受けていただくと同時に、大変お忙しい中、またお暑い中を押してご参加賜りまして、誠にありがとうございます。

北陸新幹線が開業しまして早くも1年半近くたちましたが、乗車人員が開業前に比べて基本的に3倍という状態が続いており、また地方拠点強化税制なども地方創生の一環で政府におつくりいただいたこともあって、富山県への企業の本社機能の一部移転や研究開発拠点の立地とか、いろいろな面で大変富山県には賑わいが出ていると思っております。ただ、これを開業後1～2年の一時的なものにしないで、しっかり持続させて、新たな富山県の飛躍や発展につなげていきたいと思っております。

そのために、新幹線高架下にオープンしました商業施設「とやマルシェ」は、新幹線開業と併せて昨年3月にスタートし、大変賑わっております。また先月には富山のお魚を扱う「さかな屋 撰鮮」が暫定的に富山駅前広場に立地をしました。CiCビルはご存じかと思いますが、その1階に富山の物産、伝統工芸品なども合わせて扱う「ととやま」がオープンしました。例えば、「ととやま」などは5階にあってスペースも小さかったこともありますが、従来に比べるとお客さんが3倍ぐらいになったと伺っています。富山駅周辺を取り巻く商業環境、観光はいろいろな面で大きく変化していると思えます。

そこで、今の鉄道高架化事業が完成しますと、その高架下空間は、いずれあいの風鉄道で管理していただくことになるわけですが、ぜひここを富山県の玄関口にふさわしい、魅力的で賑わいのある場所にしたいと考えております。この場所は富山市民はもちろん、富山県民が幅広く利用される場所であり、また多くの県外からの観光客、ビジネス客もお立ち寄りになる注目度の高い場所になります。同時に、その利用形態を考えますときに、今ある富山市はもちろんですが、先ほどご紹介したCiCの「ととやま」や周辺の商業施設等の関係、また駅北に富岩運河環水公園に今度、富山県美術館もできます。さまざまな周辺の施設やまちの動向、また県下全体の県民の皆さんのニーズ、また観光客、ビジネス客のいろいろなニーズなどもしっかり踏まえてその利用の在り方を考えないといけないということで、この検討委員会を設置させていただいた次第です。

今日は、昨年実施しました駅利用者を対象としたニーズ調査の結果や高架下開発の先行事例などを用いてご説明をさせていただいて、委員の皆さまからそれぞれ大所高所からまた忌憚のないご意見を頂きたいと思っております。

## ○座長挨拶

(座長) 私も新幹線が開通してから何度も富山県に来ていますが、来る度に駅前がきれいになっていて、本当にまちがこんなに変わるのだということを実感しております。「とやマルシェ」も使わせていただいています。実は今の駅舎ができるときに県の側でどういう駅舎を造ったらいいのか、設計者にこういうものを鉄道・運輸機構に提案しようといういろいろなデザインの公募をしたことがありました。そのとき私が座長をやっております、確か70点以上のデザインが集まり、今の内藤先生の案に決まったわけでありまして。そのときにいろいろ議論をして、本当に良いデザインだということではほぼその形でつくっていただいているわけですが、それがあと3年ぐらいで完成形になります。そしてそのデザインは外側だけでなく、うまく使われるということが最大の課題ですので、ここをうまく使っていただけるように、内部空間をこれから議論させていただこうと思いますので、よろしくお願いたします。

## ○議事

< 資料1-1～資料4-2まで 事務局より説明(略) >

< 資料5 「検討に当たった論点」 について、事務局より説明 >

(事務局) 本日は第1回目になりますので、事務局として議論の参考にしていただきたいということで、論点を資料5で簡単にまとめております。

1つ目の論点として、今の富山駅が駅利用者にとって分かりやすく利用しやすい施設になっているかという目線での議論が必要だろうと思います。先ほど紹介がありましたが、コンビニや観光案内所はあるわけですが、やはりそれに対する認知度が低いのではないかという問題が指摘されるかと思えます。また、先ほどもありましたが、駅周辺施設には事業主体が違うものがたくさんありまして、全てを見通してどこに何があるかが分かるという案内がなかなかないのではないかという問題点もあるのではないかと思います。これは富山駅の特徴として、いろいろな事業主体が関わっていることがこの問題の根っこにあるのだらうと思います。

もう1つが、県内資本の出店についてどう考えるか。先ほど資料4-1でご説明しましたが、工芸店も石川県のものが中心になっているわけです。この理由は、さまざまあるのですが、例えば、高架下に賃料を払って入るとなると、相当の賃料を払う必要が出てくる。そうすると、結局払えるところが入ると。市場原理でいきますと、どうしても費用負担に堪えられる企業しか入れないというのが普通の結果になるわけです。その結果として工芸店は富山の駅にもかかわらず石川のものばかり売っている、そのことについてどう考えるかということです。

3つ目が、先ほど知事のあいさつにもありましたが、富山の駅は富山市にあります、これは県も事業主体で関わっていることもありまして、やはり富山県全体で一番大きなメインの駅になるわけです。富山市はもちろんです、他の市長村の皆さん、もしくは他の

市町村の企業の皆さん、そういう方々にどういうふうに使っていただくのかという視点が要るのかどうかということです。

4 つ目が、富山らしさをどう出していくかということです。長野駅では駅に善光寺の門に似せた柱が付いていたりしますが、富山駅はガラスということで大変きれいな駅だとは思いますが。この中身、外観も含め、富山らしさをどういうふうに考えているかということだと思います。

最後に、大事なポイントとして、最後の資料で説明がありましたように、運営主体をどう考えるか。当然あいの風さんが中心になってということになるのですが、実際の運営主体をどうするか。また、事業収支もある程度考えていかなければなりませんので、事業収益についても留意していく必要があるだろうということです。

(座長) 最後の資料5が今日の議論の出発点になるということです。私個人的に付け加えさせていただくとすると、富山駅は県内のお客さんもたくさん利用しているので、ここに入るお店が県内向けと県外向けはどんなバランスであったらいいのかということも重要な課題ではないかと思っています。

#### ○意見交換

(委員) 今、事務局からお話がありましたが、論点について少しお話をさせていただければと思います。

最初に、駅利用者にとって分かりやすい、利用しやすい施設となる工夫が必要ではないかという点です。皆さんご存じのように、現在の富山駅をご覧になっていただいているいろいろなご意見がありました。新幹線が開通当初から、利用者の皆さんからは、例えばトイレはどこにあるのか、コインロッカーはどこにあるのかなど、非常に分かりにくかったのだらうと思います。ですから、かなりいろいろな手当をして、告知もしました。今回、せっかく高架下はどういう形になろうと開発する上でこういう案内表示や施設の外観を今以上にもっともっと工夫をして、できれば、関係者の皆さんで調整しなければいけないことがあります。利用者目線に立った案内表示という観点で進めていかないといけないと思います。例えば、デザインが悪いというわけではありませんが、あまりそれにこだわり過ぎると利用者目線から外れていってしまう可能性があるのです。そういうところを気を付けてやっていくべきではないかと思っています。

もう1つ、富山らしさをどう創出するかという問題があります。ご存じのようにあいの風とやま鉄道は通勤通学の利用者が約7割強です。もちろん富山駅ということを考えれば、県外からのお客さまあるいは海外からのお客さまに、われわれとしては喜んでいただけるような施設に高架下がなれば、そういう施設が入っていただければいいと考えております。しかし一方で、われわれとしてはやはり経営的な面で赤字になってはならないとも考えております。その辺のバランスも考慮していくべきではないかと思っています。

さらに、富山駅の高架下の富山らしさをどうやって創出するか。われわれの考え方としてはもちろん富山らしさを創出することについては大賛成でございます。特に「とやマル

シェ」側の東部エリアについては、われわれとしては利用者目線で考えれば、新幹線の高架下に入っていらっしゃる「とやマルシェ」とのある程度の統一感がやはり必要だと思っています。この「とやマルシェ」との統一感を持たせながら、富山らしさを出していく。そういう形で取り組んではどうかと思っております。

高架下の事業の運営主体と利用者数についてです。先ほどご説明がありましたが、資料2-1に開発対象エリアの地図があります。今開発しようとしているところは在来線の高架下のエリア3カ所であり、新幹線の高架下のエリアのスペース全体から見ると、それぞれ大体5〜6割ぐらいのスペースなのです。そういう限られたスペースの中で、例えば荷さばき場やごみ置き場、さらに保安施設、こういうものを別々にやりますと効率的にも非常に悪くなる。スペースがどんどん減ってってしまうわけです。ですから、こういうところも、効率的な運営ができなくなるので、こういうところの共用など、「とやマルシェ」さんとの連携が必要ではないかとも考えております。

先ほど経営面で赤字になってはならないように考えていると申し上げましたが、われわれとしては適正な、例えば賃料収入などがある程度確保されるような形で進めさせていただければありがたいと思っています。

(委員) 先ほどのテナントの話について、やはり富山県人としては極力富山県内の関連の方という希望を持ちますが、賃料が高い、安いという問題もあります。先ほどおっしゃったように、最後はやはり収支がどうなるかということが出店される方の最大のキーポイントになります。そのあたりを考えたときに、果たして現在設定されています賃料そのものが周辺等に比べてどの程度の水準になっているのか、教えていただければと思います。

もう1点は、関連しまして、とやマルシェにいろいろなテナントが入っていますが、この中で、全体を見たときに何割ぐらいの県外資本がテナントに入っているのか、よろしければお教えいただきたいと思っています。

(石井知事) これは少し微妙な問題でして、周辺の商業施設などよりもおそらく「とやマルシェ」の賃料は高いと思いますが、公表されていないので、次回までにご相談してうまく何らかの表現ができるようでしたらまたご説明したいと思います。

(委員) 富山市以外の市町村の関わりというところが論点の中にあろうかと思っています。これに関して、例えば新幹線で南関東から来るお客さま、少し遠方から来るお客さまのことを考えますと、そういうお客さまから見ると、富山市という見方はあまりないと思うのです。富山駅に降りますが、特に観光客のお客さまは富山県に来ているということなので、別に富山市にこだわる必要は全くない。ですので、県内の他の市町村の企業さん、あるいはお店等がこのエリアにあるべきだと大いに思います。それが利用者の便宜につながるのではないかと思います。

それに関連して、先ほどのご説明の中で、特に観光客のお客さまはやはり飲食店を求めいらっしゃる、しかし、他の主要駅に比べると富山駅に関しては飲食が少ないということがありました。もちろん、先ほどのお話にもありましたように、これは効率も関係があると思います。飲食に関して、駅という動線が重なる、動線が集中する場所において、ど

ういった内容のものを飲食で提供するべきかについて少し言っておきたいと思います。

昔はデパートの上の方に食堂がありました。そこではいろいろなものを売っている、いろいろなものが食べられる。ラーメンも食べられれば、えびフライも食べられ、いろいろな幅広いものが食べられたと思います。駅というのは、観光客の動線から見ると、そういうものが求められると思います。例えば富山に来るといつでもブリが食べられるのではないかと考えて来られる方は少なからずおられます。私の周りにもたくさんいます。そういう方を、騙してはいけないのですが、ある程度満足させてあげられるような飲食の施設、あそこに行けばとりあえず自分が思っている富山のイメージ、食のイメージを満たしてくれるというような店がやはり県都である駅だからこそ、動線が集中する駅だからこそ必要なのではないかと少し感じました。

もう1つですが、非常に感じますのは、新幹線のお客さまにはビジネス客が多いです。最近、飛行機に乗りますとビジネス客がほとんどおられなくなりました。先ほどのアンケートの中にもありましたが、ビジネス客にはビジネス客なりのニーズがあるかと思っています。例えば、レンタカーがそうであり、ATMも案外そうなのかもしれません。

それから、商売になかなかつながらないので申し訳ないのですが、しかししめらかなニーズなので、何かのシャワー効果につながればいいかなと思うのですが、いわゆるビジネスセンター、少しそこにいてパソコンを開けるような場所も、県都ゆえに必要なになってくるのではないかと思います。繰り返しますがこれは直接売り上げになかなかつながらにくい部分がありますので、ロケーションを考えるなどしてシャワー効果が出るようなことを考えることも必要ではないかと思っています。ニーズは間違いなくあると思います。

(委員) 新幹線開業後、私も時々この駅を利用しているわけですが、一般的に言われている、本当にどこに何があるか分かりづらいという県民市民の多くの方が印象的に持っている問題を私自身も実際に利用してみて感じました。トイレがどこにあるのか、銀行のATMがどこにあるかなど、必要性のあるときにその場所へ到達できない。これは案内板やサインの問題ですが、まだ新幹線駅内も完成しているわけではないので、そういう途中経過においていろいろなサインを作っていくというのは難しい部分もあるかとは思っています。

工事も同時並行的に行われていて、最終的に富山駅がどんな空間になるかという完成のイメージも、いつごろどういう完成図ができるかということも多くの方に知られていないので、疑心暗鬼ないろいろな噂が利用客の間で流布、伝わっていく部分もあるのではないかと思います。やはり最初の印象というのはすごく重要ですので、きちんと今の段階において、完成している位置関係などに関して、これ以上変化がない施設や他のものに関しては早く分かりやすく案内板を整備していく必要があるのではないかと思います。これは私だけに限らず多くの方が思っておられることではないかと思っています。

2つ目として、私自身マーケティングをやっているのですが、そのような観点から考えると、今、個々の施設が単体としていろいろ行動やPR活動をされているような感じですが。やはり駅全体に入っているいろいろな施設やサービス業やいろいろなものの横の連携をどう考えていくのか、商店街で言えば商店街組織、まちであればまちのコンセプトをどう作っていくかという、もう少し大きな枠組が必要ではないかと思うのです。あまり各団体の特徴を出すとまたお客さんにとっては余計に分かりづらいので、ある程度のカテゴリー単位で

コーナー展開、名称ができてくるようなつながりが駅内にあり、さらに駅周辺と連携してまちを造っていくという観点が必要だと思えます。ショッピングセンターですと、ディベロッパーという開発会社がきちんと統一コンセプトを考えていくのですが、やはりこういう集積体を造るにおいても、全体のコンセプトを考えていく会社があれば一番いいと思うのですが、もうそれぞれができてしまっていますから、今後を考えると、横の連携を速やかにいろいろな形で話し合えるような機関や組織が必要ではないかと思えます。そういうものが出てくればお客さんも回遊しやすくなり、駅をはじめとする周辺の店との動線もしっかりできてくるのではないかと思えます。

(委員) 私は大変頻度高くあいの風と高山線と新幹線と利用させていただいていますので、現在直近で改善できることと、もう少し時間をかけて工事に従って直していくことを分けてご提案できればと思えます。

直近で改善できる場所では、分かりにくさは本当にあるのですが、今、上の方はそんなにいじれないと思うので、もう少し床を利用するという点です。例えば新幹線から降りてくる方を私も逆にお迎えして案内することがよくあるのですが、待ち合わせが非常に複雑で、駐車場を利用している場合と徒歩で来ている場合といろいろなロケーションの中で、どこで教える場所の明確さがありません。話が東京で恐縮なのですが、例えばハチ公前のようなものが今のところないのです。ですから、北とか南とか地元の方は分かっても、よその人には当然南北みたいな話ではなかなか分かりにくいので、直近で改善できる場所は、まず待ち合わせ場所を意識していくことです。

また比較で恐縮ですが、今世界一ストレスのたまる駅は東京の渋谷駅なのです。本当に分かりません。それこそ事業者も経営者も鉄道も地下鉄も JR も 100 ぐらいの企業が入っていますので、不親切この上ない状況です。どうやって穴埋めしているかという点、やはりその迷う所に人が立っているのです。ですから、直近の改善では、ある程度今回の調査を含めて案内役が立っていただけてどんな声があるのか、アンケートだとなかなか分かりにくいことがあると思うので、直近の改善ということでは必要だと思えます。

それから、案内所について、私もすごく気になっています。富山駅は、「かがやき」で来ると長野の次が富山なのです。ですからオール富山の玄関口であるということでは、案内所も、少しわい雑になるかもしれませんが、県内の市町村のパンフレットや情報がすぐに取りれるようにする。極端に言えば、台湾などは技術をどんどん売り込むために国の中の中小企業などの情報を全部置いてあるのです。例えば紙媒体で無理であればそういうふうに企業のアクセスができるような、今持っている情報をつなぐ窓口だけ置けばいいと思うのですが、そういうチームジャパンみたいにオール富山という位置付けを持っていただきたいなと思えます。それは両方の案内所にその要素があれば、こっちではないので総合案内所に行ってください、あるいはとやま観光案内所に行った方がこうですと、きちんとバトンリレーできると思うので、バトンでうまくつないでほしいなと思えます。

また、床代が高い中で、これから地域の地元の企業さんが入りにくい点に関しては、すぐに答えではないのですが、他の既存の施設と競合という立場で差別化するのであれば、もう少しオール富山ということで各市町村のミニ観光案内所や北陸の玄関的要素で、賃料が別のポケットから入ってくるようなものも工夫しつつ、地元の企業の出店の床代の賃料

を少しサポートするようなことはできないか。具体的で恐縮なのですが、そういう公的なパブリック内からの賃料と、地元の企業の少し穴埋めみたいなことで床代をケアするようなことはできないかと思います。

それから、要素として1つ。皆さん、サービス、飲食、コンビニの要望が県内と県外であったのですが、いろいろな方から言われるのは、せっかくおいしい富山なので、普通のお土産でなく、おつまみやお総菜みたいなものがあればいいかと思います。通勤通学の方など地元の人がおいしいものが、意外と観光客もおいしいと感じます。1つは今外向けの富山駅の整備が進んできているのですが、やはりどこの観光地もそうなのですが、地元の人がフラフラしているというか、滞留している要素が実は駅や公共施設はとても重要で、特に冬場などは列車が着いた後にさーっと駅が閑散としてしまうのはとても寂しくて、やはりある程度地元の人が滞留するようなものをもう少し工夫する。そういう意味では、今度できるあいの風の高架下というのは、そういう非日常の中に日常性があるようなコンセプトを持っていくといいかと思います。朝夕は学生もいる、あるいは日中は病院帰りのお年寄りもいるというようにところに観光客が交ざり込む。

それから、設計の専門家の方に大変失礼なのですが、美しいデザインもいいのですが、意外とこういう公共施設は迷い込んでしまう設計みたいなものもあっていいかと思います。ヨーロッパなどに行くと、あら、目的と違うところに来てしまったと言いながら意外とそこにはまってしまうようなこともあるので、今もうこういうふうにしたところの問題点を詰めていくよりは、もう今こうある要素の中で、逆に人が何となくこのあいの風の高架下に迷い込んでいくみたいな感じの、そんなごちゃごちゃとした感じもあっていいのかなと思います。

(委員) 今、言われたのですが、東京駅の大丸さんの地下に今いろいろな食品をたくさん売っていますよね。私は朝も昼も夜も、東京へ日帰りで会議に行くことがあるものから、行きます。そうすると、朝開店すると、働いている人ではなくて、お年寄りの方が一生懸命お弁当を探して買っていったり、お昼になるとビジネスマンがたくさんお弁当を買いに来たり、夕方になるとまたお年寄りの方や一般の家庭の主婦の人たちがいろいろなものを大丸さんの地下にたくさん買いに来ます。私はあそこに来る人は観光客か、それこそ何か用事に来た人たちがちょっと買うのかなと思っていましたが、地元のそういう普段家で着ているようなものを着て、袋を持ってたくさん買っていかれるのです。私は今言われたみたいに、地元の人たちが利用しやすく、出入りする人が多ければ、それを見習っていろいろな人もまた来てくれるのではないかと思います。

それから、資料3の2ページですが、アンケートを取られた中に、県外の方は1番が寿司店、2番に和食、3番にご当地グルメ、4番にカフェと書いてありますよね。県内の方はカフェが1番になっていますが、私も本当にここにいるとそういう喫茶店みたいなものがないような気がしたのです。やはり誰かと会うときでも一緒に買い物に行っても、ちょっと入ってお食事しようか、コーヒーでも飲もうかというときは、簡単に入れるような所があれば皆さんが利用しやすいと思うのです。せっかくこういうふうアンケートを取られたのですから、ぜひこれは入りやすく広いものを取っていただければいいと思います。コマダさんというコーヒー店では、コーヒー1杯で何時間でもいて、子どもたちが夏休み

の勉強をしていってもいいですよとか、ビジネスマンはここでパソコンを出して仕事を何時間していってもいいですよと、そういう時間を与えてもらえるのです。涼しいし、静かだし、日中などはそんなに混んでいませんから、混んでいる時間はやはり夜や朝早くお年寄りが夫婦でお食事に来たりされるから入っておられます。ですが、夏休み中の日中などは結構子どもが入り、パソコンを持って入ってコーヒーを1杯飲んで一生懸命パソコン打って仕事をしている人もいます。やはり私はそういうカフェみたいなものがあれば、利用する人が多いのではないかなと、たとえ電車の乗り降りにしても時間があればそこで時間をつぶすわとか、1時間早く来てもあそこで休んでそれから電車に乗っていこうとかそういう人もいるだろうと思いますので、ぜひそれは必要でないかとアンケートを見せていただいていたと思います。

(委員) 新幹線開業と同時に駅が仕上がってれば本当は一番良かったのでしょうかけれども、やはりまだ途中なのでいろいろな不便さがあると思います。私もよくあいの風は利用しますが、東京の方と北口で待ち合わせしようとしたときに、待ち合わせに会えなかったのです。でも、これから整備されてきれいになると、結構素晴らしい駅になるのではないかと思います。それで、通っているうちにどんどん駅は変わってくるのですよね。最近、私はそれが楽しみで、だんだん変わってくるなど、あまり難しいことを考えなくても、ちゃんと素晴らしいものになるのではないかなと思うのです。

また、先ほど言われたように、完成図みたいなものがあれば、例えば県民でも、31年にならぬよということが分かれば、ああ、31年にはそういう素晴らしい駅になっているのだと感じるのですが、そういう案内もあってもいいのかなと思います。

もう1つは利用者のための案内板がきちっとしていれば、完成したときにはきつとなっているのだらうと思いますが、トイレがどこにとか、コンビニがとか、多分完成したときには分かりやすくなっていると思うのであまり心配していませんけれども、完成図みたいなものがもし先に提示できるのであれば、ぜひ県民の皆さまにも示していただければありがたいと思います。

(委員) 今お示されました富山駅には、高岡駅にはあるのですが、伝統工芸品が非常に少ないというご指摘がありまして、なるほどと、私も先ほど少し寄りましたが、ほとんど高岡銅器がないのですね。県の経営支援課でしています富山県伝統工芸品フェスタが11月にあります。昨年までは高岡でしたのですが、そのイベント、工芸品フェスタを富山駅前のこのイベント広場ですれば、観光客にPRになるかなと考えております。これにはなかなか問題がありますが、年に2~3回していただければわれわれ伝統工芸士会としても非常にいいのではないかなと思っております。

(委員) 先ほどもお話にありましてとおり、あいの風の利用は7割ぐらいが通勤通学であり、他3割が一般ということですが、やはり富山駅はあくまでも富山市だけではなくて県都富山の駅です。ですから、例えば富山県では黒部、富山、高岡に新幹線が停まりますがお土産一つとっても富山で降りれば黒部のものも買える、高岡のものも買える、そういうことを考えると、富山の特色というのは、やはり薬なのですね。薬は全くここに出て



いないわけです。「富山で薬を買おうと思っても、どこに行けば買えるのか」と、よく昔から言われます。薬といっても、難しい薬ではなくて、例えば仁丹が入ったような簡単なもので、3 つほど飲めば頭がスッキリするような、あるいはポケットの中にも入る形のもので、富山というのはやはり何といっても薬、黒部の方へ行けば水だとか、あるいはバタバタ茶がありますし、それから高岡は銅器ですから、この特徴を大いに出して賑わいや、利用者の利便を図るということが非常に大切ではないかと私は思います。

やはりテナントの料金の問題もありますが、薬のメーカーもたくさんありますから、何かそういうものを開発していただいて、ちょっとポケットの中に入れておくことができ3 つほど飲めば頭がスッキリする、富山のお土産を買ってきたということで帰っても利用されるようなものがあればいいと思います。

先ほど高架の上の方だけでなく下の方も話しておりましたが、一番困っているのはやはり社会的弱者です。身体障害や年寄りの方たちが駅に降りても分かりやすいということ、そして事故がないということです。例えば構内で事故があった場合には、ここはあの風、ここはJR 西日本ということになりますと、高架から下に降りますと、ここがどこのエリアだなどということはなかなか分からないと思うのです。そうした場合に何か色分けでタイルか何かで識別できれば非常に分かりやすいのではないかと私は思います。

(委員) 4点ほどお話しさせていただきます。

1つは先ほどもおっしゃられたのですが、設計的には31年度までの予想的なことも書いてありますので、私たちの意見を取りまとめられて、とても良いものが完成していくのではないかと私は思っています。私は去年5月に初めて新幹線に乗りましたが、それから1年半近く、すごく素晴らしくなっておりました。駐車場の整備も良くなりましたし、案内板も掛かってなかったところにもありましたし、これからは良くなっていくのではないかと私は思っています。

2つ目は、子どもや知人やいろいろな方に「食事の閉店時間がとても早い。何とかならないものか」と言われるのですが、何ともならないのでしょうか。21時30分が一番遅い閉店時間でした。そういう意見があったものですから、昨日、駅を見て回りました。そうしますと、20時まで、20時半まで、一番長いので21時30分というところがありました。マリエとやまに行くと、23時30分までレストランが開いているというところもありました。なぜこのようなことを言うかと言いますと、終電近くの新幹線で降りてきて、家族にご飯の用意をしてもらうのも大変だし、どこか駅でそばでも食べていきたいなと思っても、富山の温かいそばも食べられないということで、これは何とかならないものかという話を聞いておりました。そこのそば屋さんで聞きましたら、そこは20時閉店でした。利用者さんから、「もう少し時間を延ばしてもらえないですか」という意見が多く出したら可能なのですか」と聞きましたら、「可能ではありません」と言われましたので、おそらく人員的なことやいろいろなことで可能ではないのだろうと感じてきました。

それから案内板のことですが、先ほど出ましたが、私たちはどこに行ってもまず降りましたらトイレを探すのです。そのトイレの案内板がちょっと分かりにくく、去年の5月に新幹線に乗り富山駅を利用してどこにトイレがあるか分かるようになりましたので、今は不自由は感じていませんが、そのときの印象ではとても分かりづらかったです。

それから、先ほどおっしゃいました「富山の売薬さん」についてですが、お客様の中には、稀に頭痛薬などを求められることがあります。そこで、売薬の薬が薬局に置いてあるかどうかを知りたかったのです。とやマルシェには、「マツモトキヨシ」がありました。そこには、富山の漢方薬コーナーが設けてあり、「赤玉」とか「ケロリン」、「ズバリ（頭歯利）」、「熊胆圓（熊の胆）」等がずらりと並んでいました。地鉄ビルのアオキ薬局さんにもあると聞きました。やはり売薬さんは富山という印象を持ちますので、売薬さんが行李を担いだようなものをマスコットの置いて、富山の宣伝の一つにしたらよいのではないかと思ったりしてきました。

あいの風とやま鉄道富山駅高架下開発に関しては、待ち時間等、20～30分ほどで利用できる、コーヒーカウンターや軽食店、本屋、手短に買える手土産的店舗などの設置を望んでいる人が多くあります。

（委員） 私は高校のPTAの副会長ということで、私個人としてよりは、高校生の立場での意見を求めておられるのではないかと思うので、3分の1ぐらいの年齢の立場で言わせていただければと思います。

私には高校生の子どもが2人、男の子と女の子がおります。やはり高校生なので、よく駅前へ自転車なり何かで行って利用するので、その2人の意見とお友達にも意見を聞いてみました。そうすると、やはり私たちは、駅というどうしても観光客というふうに思うのですが、先ほど私も駅の方へ行ってきてみると、制服を着ている学生がとても多いのです。通勤客も多いですが、やはり大変高校生が多いのです。高校生というのは残念ながらあまりお金がないです。

一方、駅ができましたときに、2階の少しオープンな部分に高校生がみんな勉強して陣取るので困るということなので、私も先ほど見てきました。「勉強は家でしましょね」という札が机の上に貼ってありました。それでも勉強している子が何人もいまして、やはり富山県は教育県で名を売っているのです、そこに陣取ったということはみんな必要としているということなので、高校生のために開放してくれとは言いませんが、CiCなどには勉強の場がありますし、やはり必要としている高校生に何か利用させてやれる方法がないものだろうかと思っています。

例えば、お弁当を持って行って、「駅のどこかで食べればいいじゃない」と言っても、駅には手持ちのお弁当を食べられる場はないとうちの子どもたちは言います。「2階は？」というと、2階は飲食禁止で、やはりお金のない高校生には少し使いづらい場所です。CiCの4階にはサイゼリヤというレストランがありますが、そこには高校生がたくさんおられて、しかもパソコンを打っているビジネスマンもたくさんいらっしゃいます。お金は生まれないですが、先ほど言われたように、少し空いた時間に仕事ができる、ちょっと電車を待つときに勉強ができる、本が読めるというような場所があるといいなと思ったりしています。

あと、先ほどからトイレのことを言われたのですが、私も大人の方からトイレのことを何度も言われました。昔は駅のトイレは汚い場所というイメージでしたが、今は逆で、トイレのきれいさが県民の民度を表すといいますか、きれいなトイレを本当に便利な所に造っていただけたら、本当に便利な駅になるだろうと思っています。

富山らしさという意味で、駅ができたとき、生まれて初めて新しい富山駅になったのですが、ちょっと寂しい思いがしました。福井には恐竜がおり、金沢には鼓門がありという感じなので、富山駅は新幹線の駅ではあるけれども、富山県の県都の駅とすれば少し寂しいという思いが実はしています。そういう意味でこれから造る新しい部分に、やはり、「ここは富山らしくて素敵な空間だね」みたいな部分ができるといいなと思います。

(委員) 2点申し上げます。私は東京と富山と両方で仕事をしていまして、週に1回必ず新幹線で往復しています。私にとって新幹線は2時間の書斎だと思っています。そこで仕事をしたり、本を読んだりしているのですが、弱点はトンネルが多過ぎてWi-Fiが使えない、ネットが使えないので、富山から出発して黒部ぐらいまでの10分間の間に一生懸命メールを送ったりしています。しかし、その前に富山駅でできる限り仕事を片付けようと思うのです。「TOYAMA Free Wi-Fi」という非常に便利なものが富山駅にはあるのですが、「クラルテ」の方ではつながりにくく、「クラルテ」のカフェでは使えない、意外といいのが地鉄の方のドトールなど、私も一生懸命研究しています。先ほどもおっしゃられていましたが、Wi-Fi完備のラウンジがビジネスマンにあると非常にいいのではないかというのが1点です。

もう1つ、私は富山経済新聞というネットニュースを運営しており、Yahooに配信して毎日見ていただいています。県内、県外の人両方に人気があった記事が2つありまして、1つは、資料2-4にもありましたが、とやま駅ナカ酒Barというのがあり、日本酒が飲めるイベントがあり、これは県外の方も含めてヒットしました。もう1つは、駅前のシネマ食堂街がなくなったという記事です。これがものすごくヒットして、県外の人の方がたくさんツイートしてくれました。そういう意味では、今度の駅高架下はシネマ食堂街を再現すればかなりいいのではないかと思ったり、角打ち酒場という酒屋さんの横で販売しているお酒を飲むみたいのものもすごく人気があったりするので、あえてそういうレイアウトしたようなつくり方を「とやマルシェ」と連動しつつなのですが、やっていくのも面白いのではないかと思います。

(委員) 私から2点お話ししたいと思います。1つは先ほど来言われていますように、いろいろな案内部分が非常に弱いということです。例えばカフェは、「マリエとやま」や「エスタ」の方にも実はあるのですが、県民自身もなかなか知らないというのが圧倒的に多いので、どうやって情報提供するかを考えたときに、駅周辺施設も含めた全体が分かるようなもの、例えばショッピングセンターにありますようなマップ、それを見ればコーヒーを飲みたいときにはここに行けばあるというようなものを作って情報提供できればいいのではないかと思います。

もう1つは、駅の観光案内所です。私どもも駅の観光案内所、それから訪日旅行センターということで、外国人の方の窓口をやっていますが、それ以外に富山駅の総合案内所と3つに分かれている状態です。整備後は一体的に駅の施設もご案内できるし、観光もご案内できるという形で何でも相談できるワンストップサービスの窓口にできればいいなと思っています。そのためには、ある程度のスペースと人と金が要るわけですが、そういったことについて、ぜひ委員会の皆さんのご意見を頂きながら、実現していきたいなと思っ

ています。

(委員) 先ほどからお話をいろいろお聞きしてしまして、なるほどなと思うことばかりです。最初にお聞きしましたお客さまの目線、消費者の目線に立って、これを第一に、まずトイレを分かりやすくということは絶対的に必要条項だろうと思います。

また、富山駅に降りて、富山だというインパクトが少ないです。先ほどのお話もありましたが、福井の恐竜や金沢の鼓門などのように、富山には富山の、例えば売薬さんの置物の所で皆さん集まらしましょうなどです。本当は富山で一番いいのは、ドラえもんだと思っています。これを富山駅に置いて、ドラえもんは高岡に行ってみてくださいと言えば、高岡市も納得されるのではないかなと思います。圧倒的に世界中に通用するのが私はドラえもんだと思っているのです。これをなぜ利用しないのかとはっきり言って不思議です。もっと大きい銅像を駅前に建てれば、日本中から親子連れが来るのではないかなと思います。それをまた、高岡に行ってみてもらえばいいのではないかなと思います。それほどのインパクトのあるものと、集合場所をやはりあそこの前だったら、あつというようにすぐ集まれるような場所を作らないといけないかなと思います。

食べ物に関して、先ほどもお話がありましたが、シネマ食堂街がなくなったということで、何も豪華なきれいなどこにでもあるようなレストランを造る必要はないので、富山らしい新鮮な魚、新鮮な食べ物、新鮮な煮物とか、庶民的な店舗みたいなものがあれば、県外のお客さんにはかえって喜ばれるのではないかなと思います。富山らしい個性を出すことをみんなで知恵を絞って考えていった方がいいのではないかなと思います。

(委員)

富山らしさの1つは、南北の路面電車の接続事業で新幹線の駅を降りて、路面電車がど一んとある。これは富山にしかない、世界中でも他にはないような景色ですので、この辺りをきれいに私どもがまたしっかり造っていきたいと思います。ガラスのまちで売っているということもありまして、今、トランジット・ライティング・ウォールという名前の緑色のきれいなガラスの壁があり、あれが在来線の方に来ますと、色がまた少し変わり同じようなきれいな壁が続きます。ガラスのまち富山が路面電車ですごく非常に便利に生活できるまちなのだとこのことをこれからもPRしていききたいと思います。

資料の2-1で、高架下の開発対象エリアに何を入れていったらいいかということが議論になるのだと思いますが、西部エリア730m<sup>2</sup>の中にこの路面電車の待合スペースを検討とまさに書いていただいています。事務的にも調整をさせていただいていますが、この路面電車の待合スペースは今、北口にありますが、あれがなくなってしまいますので、ぜひこの駅のそばに確実に入れていききたいと思います。

それから今日いろいろ議題になっていました、「やはり、そうは言っても富山市だけではないよね。ここは富山県全体の玄関の窓口ではないか。大きな玄関ではないか」ということも、おっしゃるとおりだと思います。総合案内所は富山市で今運営してしまして、ご承知のように、北口に回るのが非常に難しくて分かりにくく、そのために案内をするというのが一番大きな目的でここを造りまして、実際、問い合わせも多いです。「北口に回るにはどうしたらいいのですか」というものが多いのですが、これが将来北口がこのような形で

できあがりますと、そういう質問をする人は多分いなくなる、「ああ、あっちへ行けばいいのですね」と分かるようになりますので、まさに先ほどご指摘もありましたし、富山市が一人で案内しているのはなくて、県全体そのものをしっかり案内できるような体制で運営していくのがいいのかなとも思います。

最後にもう1点だけ、冒頭に、資料2-1の黄色い所の部分に関しましては赤字になってはならないという言い方でおっしゃっておられましたが、出資をしている地元の団体という観点から言っても、あいの風さんにはしっかり儲けていただきたいと思っています。と申しますのも、鉄道の高架化事業はそもそも事業スキームからして、鉄道事業者さんからも費用を負担していただいているのです。費用負担していただく理由の1つが、高架下の空間ができて、それが貸せますよね、そこで儲けられるではないですか、だから事業に負担してくださいというスキームでお金を既に事業に入れていただいているということもありますので、そのあたりしっかり稼いでいただくようなことも大きく念頭に置いていただければと思います。

(委員) 私の方からは2点で簡単に言います。舟橋はご存じのとおり一番面積の小さい村で、観光名所、物産も何もない所なので、もし県下15市町村での協力ということになると、何か考えていかないといけないということは分かっているのですが、頭が痛いです。それから、舟橋村は今、人口が昔は伸びていたのですが、だいぶ一服いたしまして、これからは子育て世代の流入を目指して今、政策に取り組んでいるところです。できれば子育て世代の目線からこの施設の整備を考えていただければと思います。

(アドバイザー) いろいろなご意見を聞かせていただきまして、そうだなと思うことも多々あります。事業スキーム等がどうでありましても、やはり最終的には利用者の目線でお店なり施設が統一された中で展開されるということが最も求められるべきことだと思っております。

それからアドバイザーという立場でアンケート結果を若干補足させていただきますと、コンビニエンスストアにつきましては、お客さまの足が速いと言いますか、わざわざ探してまで行かないという行動が非常に多く、確かに認知度の問題はあるかもしれませんが、そもそも利用される、もしくは移動される動線から外れて店があるから、こういう結果になってしまっているのではないかと感じました。

カフェにつきましては、ビジネスマンであれば、例えば商談の場にちょっと使うであるとか、例えば遠くの知人が来られたときにちょっとお話をする場所ということで、非常にニーズは高いのではないかと考えています。ただし稼がなければいけないという状況で、ものすごく広いスペースをカフェに割くということはなかなか難しいのではないかとというのが現実問題としてはあるのではないかと考えています。その辺はうまく取りまとめながらいい開発になればいいのではないかと考えております。

(座長) 今日お伺いして見て、資料2-1の黄色の3つの場所の話と駅全体の話がいろいろと出ているので、どういうふうに分けてやるかというのが少し難しいかなという感じがしています。知事、ここまで聞いていただいて何かコメントがあればと思いますが、

いかがでしょうか。

(石井知事) 今日第1回目ということもありますが、各委員の皆さんから本当にそれぞれいいご意見をたくさん頂けたなと思って感謝申し上げたいと思います。

いろいろなお話の中で、まず利用者目線が大切だということはもうほとんどの方が強調されたことかと思えます。またできれば富山らしさも何か考えてほしいということでした。それからアンケート結果などもご説明しましたが、割に多くの方が空き時間、待ち時間などに、そこにいられるようなカフェや何か居場所があるといいなというお話もあったかと思えます。それから、トイレやATMなども含めて、案内の問題です。

これは今まだ高架下事業が継続中だということもあるのですが、今当面やる仕事と高架下が完成した後の在り方の問題と分けて考えてはどうかというお話もありましたが、高架下工事継続中でもかなり配慮したつもりですが、まだまだ思い至らないところがあるかもしれません。この点は、あいの風鉄道さん、富山市といろいろ相談しながら、この高架下の検討委員会の議論と並行しながらやれることはどんどんやっていきたいと思っています。

いずれにしても、私などもタウンミーティングやいろいろな場で説明しているつもりなのですが、先ほど言われたように、県民の皆さんはいまだに高架下事業ができたらどうなのかというイメージを持っていない方も確かに多いのかもしれないので、こうした点についても考えてみたいと思います。駅全体の案内については、部分的にいろいろな個店のPRは結構あったりするのですが、現在の時点でどういうものがどこにあるか、完成したらどういうものがどこにあってどういう形になるのかといったこともぜひできるだけ早く対応したいと思います。

金沢の鼓門や恐竜とかの関連で、いろいろご意見もありました。これはなかなか難しい問題です。例えばドラえもんの話が出ましたが、私も確かに大変いいご意見だと思うのですが、例えば高岡駅にドラえもんの大きな像を造ってはどうかといった議論もあつたりします。この辺はいろいろな関係の皆さんの合意、コンセンサスを得ながらバランスよく考えていかないといけないだろうと思っています。

その他、もちろん観光客の目線も大事ですが、何と言っても利用者の7割ぐらいが通勤通学の方であるとか、高校生の目線とかいろいろな指摘がありました。それぞれごもつともなご意見だと思いますので、こういった点はまた今後論点整理をしまして、次回以降にお諮りしたいと思います。

なお、冒頭の挨拶で言おうとしましたが、できれば今年度末までに方向付けをしていただき、取りまとめていただいて、次の段階ではあいの風鉄道さんの方でこの検討委員会の結果を踏まえて高架下の利用の構想をまとめていくという段階になっていくのだと思います。そういうことですので、今日を入れて3回、場合によっては4回ということもあるかもしれませんが、ぜひ皆さんにいろいろなご意見をお寄せいただきたいと思います。次回は今日頂いたご意見を整理しまして、さらに論点を幾つか明確にして、議論していただきたいと思います。

(座長) 大変熱心に発言いただきまして、ありがとうございます。私も言いたいことがありましたが、時間が来ましたので次回にしたいと思います。よろしくお祈りします。

○閉会

（司会） 座長、どうもありがとうございました。委員の皆さん方もさまざまなご意見を頂きましてありがとうございます。次回の検討委員会につきましては、10月ごろに予定しております。後日改めてご案内させていただきますのでよろしくお願いいたします。それでは以上をもちまして第1回あいの風とやま鉄道富山駅高架下開発検討委員会を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。